

小学校英語科研究部会 部員 19名 部会長 金剛小学校 櫻井 幸枝
部長 八千把小学校 赤星 菜月

1 研究主題 「見方・考え方を働かせ、自ら学びを拓く児童の育成」

2 研究の方向

新学習指導要領が示す「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、部員が言語活動や評価の在り方について理解を深めることで、授業改善を図ると共に、主体的に学ぼうとする児童を育成するために研究・実践を行う。

3 研究の経過

- (1) 第1回小学校英語科部会 4月17日(水) 八千把小学校
・部員確認、組織作り、研究主題確認、年間計画作成
- (2) 第2回小学校英語科部会 7月11日(木) 松高小学校
・研究授業 3年 Unit 5 「What do you like?」
授業者 松高小学校 藤本健太郎 教諭
- (3) 第3回小学校英語科部会 7月26日(金) 八千把小学校
・講話及び演習
「外国語活動及び外国語の授業の基本について」
講師 八代教育事務所 瀧川尚樹 指導主事
- (4) 第4回小学校英語科部会 11月1日(金) 宮原小学校
・研究授業 4年 Unit 7 「What do you want?」
授業者 宮原小学校 西本修 教諭
- (5) 第5回小学校英語科部会 1月15日(水) 八千把小学校
・年間反省

4 研究の成果と課題

外国語活動及び外国語における指導及び評価の在り方について理解を深め、授業改善に繋げるために、第3回の部会では講話及び演習を実施し、第2回、第4回の部会では授業研究会を行った。

第2回の研究授業では、3年生「What do you like?」を外国語専科の藤本教諭が行った。本時では、「好きなものを友達に伝えてじこしょうかいをしよう。」というめあてが設定されていた。授業の前段では、色やスポーツの英語に慣れ親しむために、リズムや役割に変化をつけて児童が楽しく英語を繰り返す工夫がみられた。中段では、T1、T2のやり取りから「I like～.」という表現に慣れ親しみ、授業の終末では、「I like apples.」「I like soccer.」のように自分の好きなものを友達に伝えるという内容であった。児童の活動の様子や振り返りから、英語で自分のことを伝えられたことに喜びを感じて

いる児童の姿が見られた。

第3回では、八代教育事務所の瀧川尚樹指導主事を招き「外国語活動及び外国語の授業の基本について」という演題で講話を頂いた。講話では、①外国語を学ぶ意義、②外国語活動と外国語科の違い、③言語活動の課題設定の工夫、④「読むこと」「書くこと」の指導のポイントについて、実際にアイスブレイクで英語を話したり、授業を協働して作成したりすることで、外国語活動及び外国語科の授業の基本について体験的に研修を行うことができた。今年度は、初任3年以内や教職年数が5年未満の部員が多く、授業の基本について学ぶよい機会となった。

演習では、担当学年に分かれて、2学期の単元から一つ選び講話の内容を参考にしながら、①単元のゴールの設定、②中心となる言語活動、③単元の指導計画について部員同士で考えを出し合い、「伝え合う必然性があること」「相手意識をもって取り組むこと」「本物のコミュニケーションであること」「コミュニケーションの意義や楽しさを感じられること」を意識した言語活動を指導計画の中に位置づけた授業展開を考えることができた。

第4回の研究授業では、4年生「What do you want?」を学級担任の西本教諭が行った。本時では「ほしい食材を集め、パフェをつくろう」というめあてが設定されていた。野菜や果物の絵カードを見ながら、ゲームやチャッツを通して、単語に十分に慣れ親しんだ後、「What do you want?」「I want strawberries.」などの表現を使って、友達とやり取りをしながらパフェの材料を集める内容であった。一人一台のタブレットを活用しながら、積極的に英語を使って友達とのやり取りを楽しむ児童の姿が見られた。

年間の感想では、「専科と学級担任の授業を見ることができてよかった。実際の活動の様子から学ぶことが多かった。」「研究会で他校の先生の実践や経験を聞いて、自分の授業へ活かすことができた。」等、実際の授業を見たり、情報を共有したりすることが、特に経験年数の浅い部員には大きな学びとなったようだ。また、今年度はどちらも外国語活動の授業だったので、高学年担当の部員からは「外国語活動で楽しく英語に慣れ親しむ活動をたくさんすることが、外国語の学習につながっていくと感じた。」という感想とともに、「外国語科のパフォーマンステストについて、実践を共有する機会があるとよい。」等の意見があがり、部会を通して学んだことが授業づくりに繋がると同時に新たな課題も明らかになった。

今後の課題としては、言語活動を通じた指導の更なる充実と、目標と指導と評価の一体化を図る授業づくりについて、理解を深め実践につなげることがあげられる。そのために、講話や研究授業を通して学びを深めたり、評価の具体的な事例や授業展開例などを共有したりすることが授業づくりや授業改善に繋がると考えられる。